

2018年度事業報告

I 法人本部業務

1 経営組織のガバナンスの強化及び施設運営支援

(1) 内部監察の実施

2018年6月に理事長が交代し、新体制の下で引き続き、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化に取り組んだ。そのひとつとして、「内部管理体制の基本方針」に則り、法人本部による各施設の内部監察を実施した。本部職員が各施設に出向き、文書の整理・保管状況、現金管理の状況、職員の勤怠管理状況等について調査し、業務が適正に遂行されているかを精査した。その結果、文書管理の方法やタイムカードの打刻、超過勤務の取扱い、施設設備の安全面等において不備が認められ、本部より各施設へ改善を指示した。各施設は指摘事項に対して改善に向けて取り組んだ。（指摘事項及びその改善状況については2019年3月の理事会で報告済み。）

(2) 中期経営計画の策定

2019年度～2023年度の5か年の中期経営計画を策定した。計画の策定に当たっては、法人本部がその骨子を各施設に示し、各施設は多くの職員の企画や意見を反映できるように「中期経営計画策定委員会」を設置した。本部及び各施設ごとの計画を最終調整し、2019年3月に法人全体の中期経営計画をまとめた。また、計画の着実な推進を図ることを目的に「中期経営計画進行管理要綱」を策定し、計画進行管理表により重要取組課題の執行状況の把握、並びに評価、改善及び修正を行うこととし、4月からのスタートに備えた。

(3) 事業継続計画の策定

近年、多発している大規模自然災害等に備え、災害発生時の危機管理体制を構築するため、法人共通の指針となる「事業継続計画基準書」を作成し、災害時における法人本部及び各施設の災害対策組織の設置とその連携方法、食料や簡易トイレ等の必需品の確保策、職員の緊急参集の基準等について明示した。法人本部及び各施設はこの基準書に基づき、「事業継続計画」の策定に取り組んだ。

また、緊急参集に要する時間及び参集ルートを確認するために、各職員（常勤職員）が自宅から勤務先まで徒歩で参集する訓練（5kmを超える場合には自転車の使用可）を実施した。災害時における職員参集状況を予測することで災害対策本部の設置に要する時間や人員を想定し、事業継続計画に反映させた。



< 備蓄倉庫の非常食 >

(4) WEB 会議

施設合同で行う業者選定委員会を WEB 会議により実施した（計 17 回/年）。毎回 7～10 名程度が参加し活発な意見交換を行うことができた。各施設の管理体制を維持するとともに施設間の移動時間を削減でき、会議運営の効率化を図ることができた。



WEB 会議「第 2 業者選定委員会」 ～法人本部事務局長の他、4 施設の管理部長等が参加～

2 法人経営の健全化及び財務基盤の安定化

本部事務局を中心とした経理担当者会議により、経理事務の適正化・統一化を図ると共に、あおば及びたちほどがやの経理事務の外部委託廃止に加え、法定調書申告事務も外部委託から本部内の事務処理へ変更することにより、経理事務の効率化と経費削減を図った。

財務面については、収入と支出時期の正確な把握によって資金繰りの精度向上を図り、金融機関からの経営資金借入金を必要最低限に抑えることができた。

3 人材の確保・定着及び人材育成の推進

(1) 人材の確保

2018 年度は 4 月の横浜医療福祉センター港南 3E 棟の開棟以後も、各施設の欠員や退職者の補充のための採用活動を継続して行った。2018 年度中の職員の採用・退職の状況は以下のとおり。

<2018 年度 職員の採用・退職の状況>

		採用	退職
常勤・ 嘱託	看護師	48(21)	38
	生活支援員	46(19)	30
	その他職種	32(18)	28
	計	126(58)	96
非常勤		47(1)	26
合計		173(59)	122

※()は内数で 4/1 採用者

＜職種別職員の状況 2019 年 4 月 1 日現在＞

職 種	人 数	職 種	人 数	職 種	人 数
看護師	172	臨床心理士	13	事務クラーク	6
生活支援員	236	管理栄養士	6	調理員	2
医師	60	歯科衛生士	3	運転員	18
薬剤師	7	保育士	35	看護助手	17
診療放射線技師	2	児童指導員	13	事務当直	12
臨床検査技師	4	ヘルパー	14	清掃員	5
理学療法士	21	福祉相談員	25	音楽療法士	1
作業療法士	17	事務員	60		
言語聴覚士	15	洗濯員	9	合 計	773

(2) 人材育成の推進

4 月の新採用職員研修は、法人事業概要等のオリエンテーションの他、外部の研修専門機関に委託し、組織人として、また、支援のプロとして働く意識や取組姿勢を身につけるための研修を実施した。さらに、11 月～12 月には半年間の職場での実践を振り返るフォローアップ研修や、前年度の中途入職者を対象とするリフレッシュ研修を各 2 回実施した。



＜新採用職員研修の様子＞

その他、階層別研修として、職場のリーダー層である主任・副主任の OJT 指導力の向上を目的としてリーダーシップ研修、考課者研修を各 2 回実施した。

(3) 人事労務管理の適正化・効率化

辞令交付式及び辞令書式の統一性を確保するため、「辞令書式に関する要綱」を制定し、法人として統一的な運用を徹底した。また、人事関係マニュアルの改訂、退職事務処理の効率化など、採用・退職関係事務の適正化・効率化に取り組むとともに、人事考課結果の処遇への反映方法の一部見直しによる昇任昇給の適正化や、内部監察による各施設職員の出退勤時間管理、超過勤務時間管理の適正化を進めるなど、人事労務管理の適正化に取り組んだ。

(4) 規則及び規程等の見直し

いわゆる働き方改革法の施行による年次有給休暇を確実に取得させるための就業規則、嘱託職員等就業規則の一部改正をはじめ、法や時代の要請に基づく各種規則・規程等の必要な改正や検討を進めた。

(5) 職員処遇の適正化と福利厚生充実

採用困難職種である医師、薬剤師等の処遇の改善・適正化を図るため、医師に関する手

当の見直し・改善を図るとともに薬剤師の給与水準の改定を行った。また、職員の福利厚生向上を目的として企業型確定拠出年金制度の導入について検討を進めた。

Ⅱ 横浜医療福祉センター港南運営事業

昨年４月に４棟目となる３Ｅ棟を開棟し、４月から６月までに３２名の新たな長期入所者を受入れた。５月に入所されていた児童が逝去されたため、７月に新たな長期入所児を受入れた。また、５８名の長期入所者の計画相談を実施した。

短期入所事業は、年度当初の新棟の空床時期を活用して１２床の稼働を計画したが、利用者ニーズの調整や職員の業務習熟に時間を要したため、十分に達成することができなかった。８月以降は、徐々に入所数を増加させることができたが、２月以降は医師の欠員に伴い減少した。

外来診療は、前年度に引き続き重症心身障害医療だけではなく発達障害や小児てんかん、ボトックス治療等を実施し、診療件数は全ての診療科で前年度を上回ったが、目標値には達しなかった。

前年度末に「港南家族会」が発足し、４月から毎月役員会が開催され、その中で入所者の快適な生活を目指してセンターとの意見交換を行った。

地域の皆様に医療・福祉に関する理解を深めていただくとともに、障害児者やそのご家族を対象に当センターの機能や役割を広く伝えることを趣旨として、公開講座「とちのき講座」を３回開催しセンター利用者の増加に努めた。

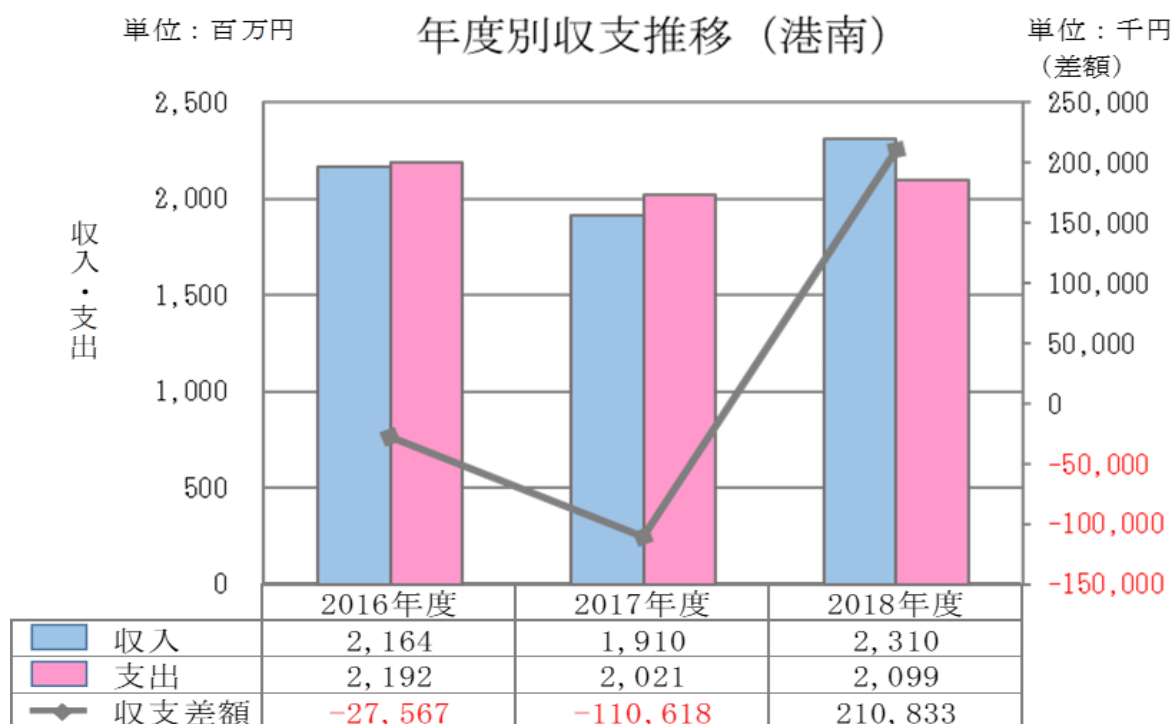
収支状況については、収入が支出を上回り、開所以来初めて黒字転換を果たした。

各部署の実績は以下のとおりである。

１ 数値目標と結果

事業名	目標値	実 績	達成率
長期入所	117.6 床/日	113.1 床/日	96.2%
短期入所	４～６月 12.0 床/日	４～６月 10.3 床/日	85.8%
	７～３月 8.8 床/日	７～３月 9.2 床/日	104.5%
	年間平均 9.6 床/日	年間平均 9.5 床/日	99.0%
入院	1.0 床/日	0.4 床/日	40.0%
合計	128.2 床/日	123.1 床/日	96.0%
外来診療	４～９月 105.0 名 /日	４～９月 92.7 名 /日	88.3%
	10～３月 110.0 名 /日	10～３月 98.1 名 /日	89.2%
	年間平均 107.5 名/日	年間平均 95.3 名/日	88.7%

2 資金収支差額の推移



3 各部門の実績報告

(1) 長期・短期・入院利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
長期 96床 ↓ 120床	定数	3,600	3,720	3,600	3,720	3,720	3,600	3,720	3,600	3,720	3,720	3,360	3,720	43,800
	実績数	2,738	3,147	3,431	3,615	3,584	3,496	3,605	3,503	3,632	3,617	3,293	3,625	41,286
	1日の平均	91.3	101.5	114.4	116.6	115.6	116.5	116.3	116.8	117.2	116.7	117.6	116.9	113.1
	占床率	76.1%	84.6%	95.3%	97.2%	96.3%	97.1%	96.9%	97.3%	97.6%	97.2%	98.0%	97.4%	94.3%
短期 8床	定数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2,190
	実績数	330	343	262	265	318	319	315	328	313	290	200	175	3,458
	1日の平均	11.0	11.1	8.7	8.5	10.3	10.6	10.2	10.9	10.1	9.4	7.1	5.6	9.5
	占床率	183.3%	184.4%	145.6%	142.5%	171.0%	177.2%	169.4%	182.2%	168.3%	155.9%	119.0%	94.1%	157.9%
入院 2床	定数	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	730
	実績数	30	30	0	20	0	3	24	22	3	15	0	3	150
	1日の平均	1.0	1.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.8	0.7	0.1	0.5	0.0	0.1	0.4
	占床率	50.0%	48.4%	0.0%	32.3%	0.0%	5.0%	38.7%	36.7%	4.8%	24.2%	0.0%	4.8%	20.5%
日中一時		10	1	6	4	1	0	1	4	2	3	0	0	32
合計 128床	定数	3,840	3,968	3,840	3,968	3,968	3,840	3,968	3,840	3,968	3,968	3,584	3,968	46,720
	実績数	3,108	3,521	3,699	3,904	3,903	3,818	3,945	3,857	3,950	3,925	3,493	3,803	44,926
	1日の平均	103.6	113.6	123.3	125.9	125.9	127.3	127.3	128.6	127.4	126.6	124.8	122.7	123.1
	占床率	80.9%	88.7%	96.3%	98.4%	98.4%	99.4%	99.4%	100.4%	99.5%	98.9%	97.5%	95.8%	96.2%

長期入所は年間で延べ 41,286 名（前年度比 135.4%）、一日平均 113.1 名の利用があった。

短期入所は年間で延べ 3,458 名（前年度比 125.5%）、一日平均 9.5 名の利用があった。

入院は年間で延べ 150 名（前年度比 40.0%）、一日平均約 0.4 名を受入れた。

(2) 外来診療

①外来診療実績（全体）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療日数	20	21	21	22	24	19	23	22	20	20	20	21	253
外来総数	1,834	1,928	1,961	2,104	2,206	1,745	2,143	2,051	2,143	1,948	1,963	2,085	24,111
1日平均	91.7	91.8	93.4	95.6	91.9	91.8	93.2	93.2	107.2	97.4	98.2	99.3	95.3
初診	41	34	37	32	42	21	27	20	27	26	25	18	350

②診療科別実績

診療科	開設頻度	年間診療件数（前年度比）	一日平均件数
小児・内科	5 回/週	6,312 件（102.4%）	24.9 件
リハ科（訓練）	5 回/週	13,609 件（112.0%）	53.8 件
耳鼻科	3.5 回/週	639 件（112.1%）	2.5 件
整形外科	0.5×週	403 件（104.9%）	1.6 件
皮膚科	0.5 回/週	106 件（110.4%）	0.4 件
精神科	0.5 回×2 週	152 件（138.2%）	0.6 件
歯科	4.5 回/週	2,890 件（124.1%）	11.4 件

外来診療の年間総数は 24,111 名（前年度比 110.6%）、一日平均 95.3 名であった。新規患者は 350 件/年（前年度比 114.4%）であり、年度後半は平均 95～100 件/月で増加している。

(3) 検査課

①院内検査

(件)

	外来	入院・入所	合計（前年度比）
CRP	92	953	1,045（112.0%）
血算	424	988	1,412（118.8%）
電解質	326	709	1,035（120.2%）
血中薬物濃度	248	503	751（174.2%）
血液ガス分析	36	592	628（140.2%）
尿定性	172	304	476（113.6%）
尿沈渣	148	287	435（117.9%）
迅速検査	133	572	705（141.6%）
肝炎ウイルス検査	23	55	78（60.0%）
心電図	31	69	100（116.3%）
心電図＋CVRR	2	22	24（133.3%）
脳波	137	22	159（90.3%）
聴力検査	13	0	13（260.0%）

②外注検査

	外来	入院・入所	合計（前年度比）
生化学・免疫他	7,635	12,866	20,501（123.4%）
細菌培養	36	604	640（127.0%）
病理・細胞診	0	2	2（200.0%）

検体検査数が院内・院外とも軒並み前年度を上回り、増加傾向を示した。また、生理機能検査においても、前年度に開始した聴力検査が前年度に比べ倍数以上の増加を示すなど、概ね前年度以上の検査件数となった。

(4) 放射線課

(件)

	外来	入院	合計（前年度比）
C T	27	249	276（71.7%）
一般撮影	559	208	767（100.8%）
ポータブル撮影	11	756	767（126.8%）
透視検査	10	112	122（61.6%）
超音波検査	361	43	404（156.0%）
画像ファイル	93	66	159（85.9%）
歯科デンタル	210	66	276（129.6%）

外来 CT 件数の減少し、入院 CT 件数は昨年度とほぼ変わらなかった。

超音波検査、歯科デンタル撮影は、大幅に増加した。

(5) 栄養課

①入所食数実績

(件)

	合計（前年度比）
経口食	48,716（93.4%）
胃瘻食朝	9,439（169.5%）
胃瘻食昼	14,892（157.3%）
胃瘻食夕	11,940（186.9%）
経管栄養食	141,975（131.7%）
日中一時支援	27（61.4%）
嚥下外来食	0（前年 4 件）

短期利用者の経口摂取よりも経管栄養食が多かったことから、経口食数が減り、経管栄養食が増えた。胃ろう食は、全食を通して増加傾向にある。

②栄養指導

(件)

指導内容	加算	非加算	合計（前年度比）
肥満	9	9	18（180.0%）
低栄養	0	0	0（前年3件）
摂食嚥下障害	5	0	5（250.0%）
合計	14	9	23（127.8%）

(6) 薬剤課

①調剤院内処方

(件)

	診療科/病棟	処方箋枚数	件数	延調剤数 （前年度比）
外来	小児科	20	33	34（142.7%）
	神経小児科	20	39	39（59.1%）
	耳鼻咽喉科	12	20	24（85.7%）
	内科	5	5	5（500.0%）
	神経内科	17	31	40（102.6%）
	歯科	3	5	5（前年0件）
	救急外来	36	70	83（105.1%）
	小計	113	203	230（95.8%）
入院	1E棟	3,700	12,394	18,153（114.8%）
	2E棟	3,483	12,249	15,936（124.8%）
	2W棟	3,881	12,953	17,963（118.1%）
	3E棟	3,245	9,555	14,499（904.5%）
	小計	14,309	47,151	66,551（142.2%）

②注射院内処方

(件)

	診療科/病棟	処方箋枚数	件数	延調剤数
入院	1E棟	1,056	2,728	4,099（140.1%）
	2E棟	588	1,437	2,041（136.2%）
	2W棟	577	1,187	1,651（84.8%）
	3E棟	333	687	937（211.0%）
	小計	2,554	6,039	8,728（128.4%）

(7) 医療福祉相談室

① 相談業務

	計
受診相談	314 件
関係機関調整	93 件
一般相談	79 件
計	486 件

※相談件数は実件数でカウント。実務上は1件の相談について、複数の相談内容や複数箇所にもたがる調整業務等が発生することが多い。

「港南区自立支援協議会・相談部会」、「磯子区自立支援協議会・重心検討会」、「金沢区自立支援協議会・相談部会」、「栄区自立支援協議会・相談部会」に参画し、地域からの情報収集や地域との情報共有、地域への情報発信等に努めた。

また「出前介護講習会」の地域からの受付窓口として、対外的な調整や施設内調整を担い、当センターが持つ専門的な知識や技術の地域提供・地域貢献に繋げている。

② 短期入所調整業務

	計
申込件数	480 件
利用件数	427 件
断り件数	54 件

※申込は2か月前の10日に締切するため、当該月の実際の利用件数と断り件数の合計とは必ずしも一致しない。

※利用件数に「日中一時」はカウントしていない。

短期入所については、2018年4月から港南、横療、各々での受付を開始し港南の専用の電話回線を設置した。

9月から短期入所利用者満足度アンケート満足度を開始し、当センターが提供したサービスへの評価やご要望を運営に活かす仕組みづくりをした。

第3四半期までは月の利用件数が40件前後、断り件数はほぼ0で推移していたが、年度途中での医療スタッフの欠員に伴い、2月以降、短期入所の枠数を絞った影響で、断り件数が増加した。

③ 計画相談業務

	計
申込件数	35 件
立案数	49 件
モニタリング数	31 件
計	115 件

長期入所者(成人)98人の計画相談については、2018年度中に完了した。医療福祉相談室・計画相談支援員による計画相談の実施数は58件、外部の計画相談支援員による計画相談は40件で、医療福祉相談室による実施率は59.2%となっている。

(8) 日中活動

実施回数（前年度比）	延べ人数（前年度比）	うち短期入所者（前年度比）
780 回（93.4%）	4,055 名（85.8%）	76 名（22.2%）

長期・短期入所者を対象として、楽しみや生きがいの場となるように、グループ毎に様々なメニューを提供している。

1コマ4～6名程度を受け入れ、長期利用者は月3～4回の参加を実施したが、職員不足に伴い大幅に活動が縮小された。



キティちゃんとの交流



地域清掃クリーン隊



スノーブレン活動



ベストポジショニング活動(リハ課協働)

(9) ボランティアの受入れ

	合計	1 日 平均 (昨年度比)	新規登録者 (前年度比)
個人実数/延べ人数	305 名/1,144 名	3.1 名 (182.3%)	32 名 (133.3%)
団体実数/延べ人数	40 団体/502 名	1.4 名 (140.0%)	

棟内では、利用者への寄添い、入浴後のドライヤーかけ、食事介助、読み聞かせ、日中活動における演奏活動や、センター内の裁縫・園芸（剪定）など数多くの方々を受け入れた。とちのき祭（19 名参加）やボランティア交流会を年 2 回開催（のべ 27 名参加）して利用者との交流や意見交換を図った。



ボランティア交流会の様子



ボランティア交流会（感謝状を渡す）

(10) 地域交流

・地域交流行事

13 回/年（音楽会を中心に地域団体やボランティア活動の方により実施）

港南区社会福祉協議会、港南台地域ケアプラザ、社会福祉法人白峰会白峰保育園など交流支援を実施した。

・新たに公開講座「とちのき講座」（3 回実施）を開催

10 月 はじめよう胃ろう食（管理栄養士）

12 月 障害のある方の口腔衛生（歯科衛生士）

2 月 アロママッサージを体験してみよう（理学療法士）



こうなんなつつこ 2018（主催：港南区社会福祉協議会）



合唱コンサート

(11) 安全管理室

事故報告件数（2 件）

	事故の種類	事故の内容	今後の取り組み
10 月	左大腿骨遠位端骨折	朝、排泄交換でお尻の下に手を入れた際泣くような、うなる声を発し、膝周囲の腫脹、熱感に気づく。レントゲンの結果左大腿骨顆上骨折と判明（原因不明）	骨萎縮が顕著であり拘縮もある。シーネ固定となり PT の指導に従い介助方法の統一をした。また、二人介助を徹底した。
11 月	胃瘻孔拡張後の瘻孔破綻	入所施設で胃瘻自己抜去後、6 時間後の受診。胃瘻チューブをサイズアップ中に瘻孔が破壊した。	胃瘻デバイス抜去後長時間経過している場合、再閉鎖や狭窄や防止予防のために早急にチューブを挿入し瘻孔の確保をする。

Ⅲ 横浜療育医療センター運営事業

2018年度は重点目標の第一として「在宅支援事業の拡充」を挙げたが、短期入所、訪問看護、訪問介護はそれぞれ数値目標を上回る実績を残すことができた。7月に開始した放課後等デイサービスは当初の登録者が少なかったため、また生活介護（通所）は重症者の増加に伴い入院者が増加したため、それぞれ目標に届かなかったが、次年度の継続希望者は多く、満足度は高いと考えられた。外来診療については、目標値は下回ったが、上半期の達成率89%から年度末には95%まで上昇した。短期利用者アンケートや投書からは、いくつかの意見や要望はあるものの、当施設の支援内容、取り組みの姿勢、接遇などは概ね良い評価を得られた。

第二の重点目標である「長期入所者の生活の質向上」については、棟スタッフの欠員が続く中で一人ひとりの希望に寄り添った日常生活の工夫を行った。またACP（advance care planning）を導入し、本人の望む医療やケアについて関わる人々と共有する取り組みを開始した。これは来年度も引き続き進めていく。

第三の「福祉・医療サービス機能の地域還元」に関しては、普通小学校の医療ケア児への看護師派遣、計画相談に係る相談の積極的対応、次年度から始まる左近山特別支援学校の医療ケア児の送迎を受託した。また旭区社会福祉協議会主催の研修会へ職員を派遣して、当施設の取り組みを広報するなど、少しずつ地域の支援体制を進めている。

第四の「職員の満足度」については、直接的なデータはないがストレスチェックの点数が他施設より高い傾向にあるため、来年度も引き続き、職場環境の改善に努め、職員のやりがいと働く喜びの向上を図りたい。

1 数値目標と結果

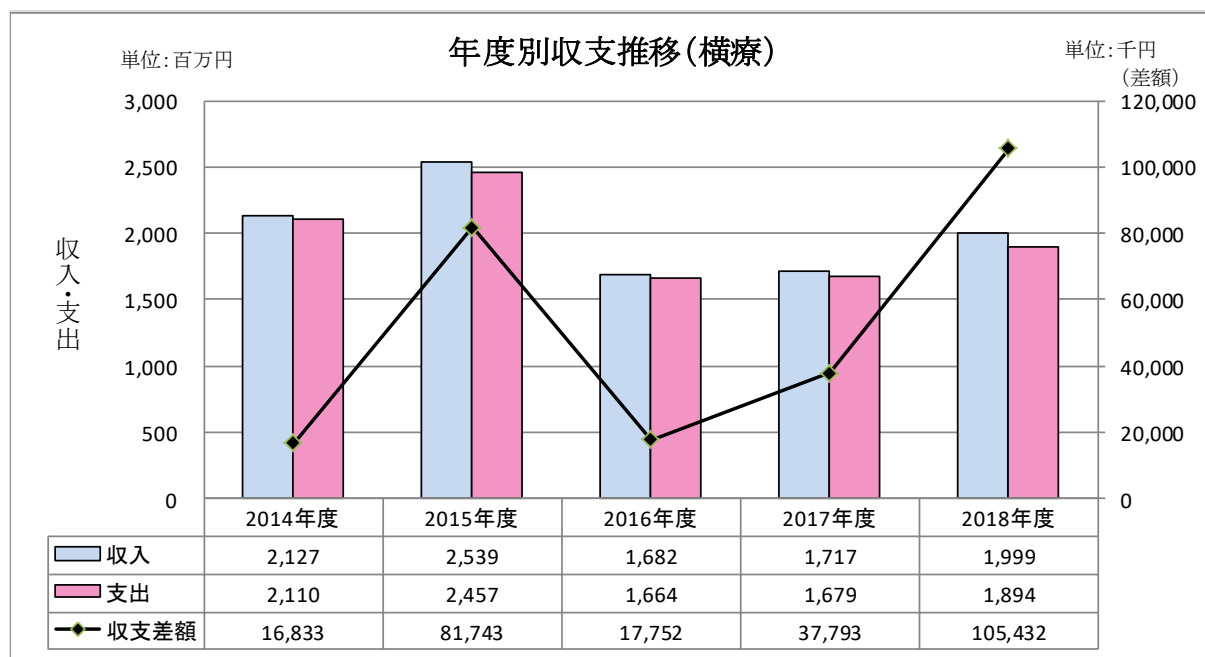
事業名	目標値	実績	達成率
長期入所	87名/日	85.4名/日	98.2%
短期入所	15名/日	16.8名/日	112.0%
入院	3名/日	1.0名/日	33.3%
合計	105名/日	103.2名/日	81.2%
外来診療	85名/日	78.1名/日	91.9%
生活介護	18名/日	17.2名/日	95.6%
訪問看護	30名 ※1	33名	110.0%
放課後等デイサービス ※2	4名/日	2.5名/日	62.5%
病児保育室あさひ	3.5名/日	2.5名/日	71.4%
ヘルパーステーションまいはと	600件/月	609件/月	101.5%

※1 2018年度末時点の目標契約数

※2 2018年度からの新しい事業（定員5名）

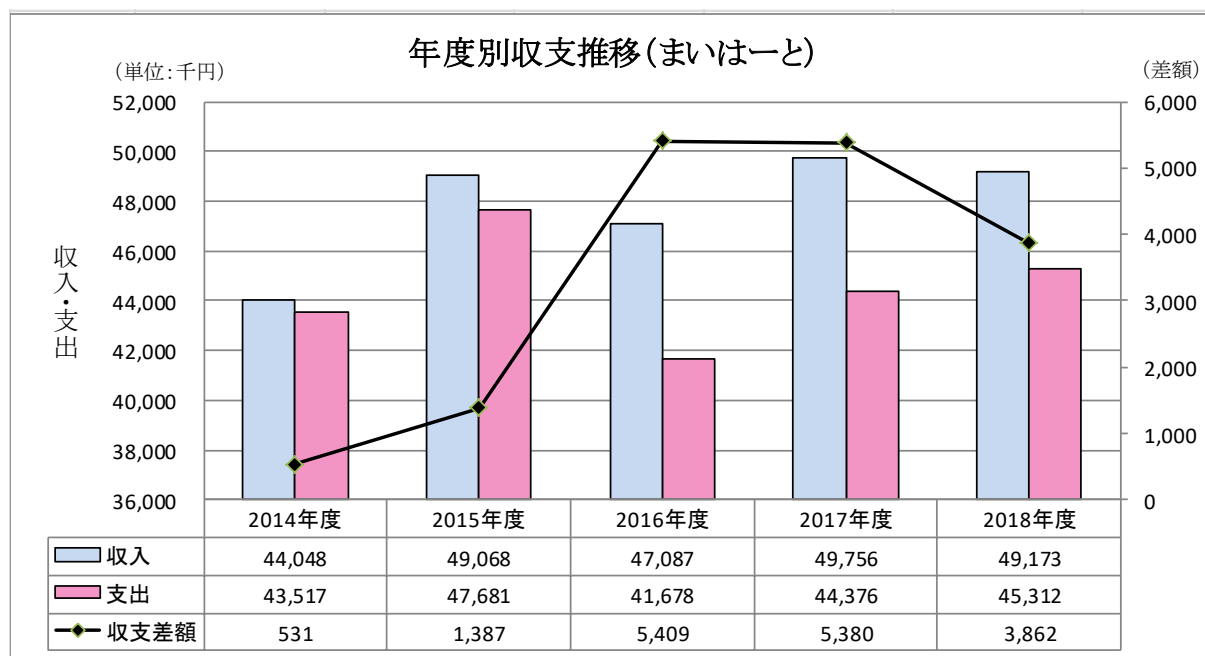
2 資金収支差額の推移

(1) 横浜療育医療センター



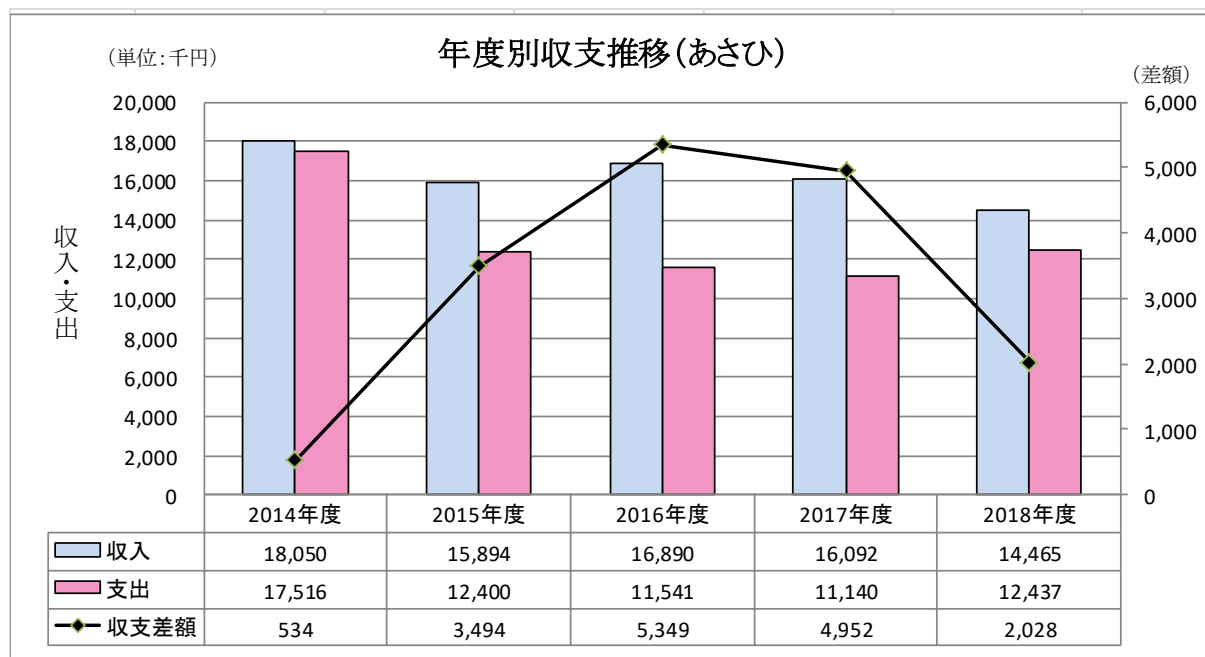
2017 年度に大規模改修工事を終え、2018 年度は徹底した経営改善に取り組んできた結果、1 億円を超えるプラス収支となった。

(2) ヘルパーステーションまいはーと



収入は 2017 年度とほぼ同額となったが、人件費の増により、収支差額は昨年度より約 150 万円減りプラス 3,862 千円となった。

(3) 病児保育室あさひ



2017年度の利用者数734名の10%アップを目標としたが、結果として125名の減となった。このため、収支差額は200万円余のプラスであるが、前年度ではマイナス2,924千円となった。

3 各部門の実績報告

(1) 長期・短期・入院利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
長期 87床	定数	2,610	2,697	2,610	2,697	2,697	2,610	2,697	2,610	2,697	2,697	2,436	2,697	31,755
	実績数	2,490	2,653	2,610	2,680	2,665	2,589	2,697	2,568	2,619	2,589	2,319	2,687	31,166
	1日の平均	83.0	85.6	87.0	86.5	86.0	86.3	87.0	85.6	84.5	83.5	82.8	86.7	85.4
	占床率	95.4%	98.4%	100.0%	99.4%	98.8%	99.2%	100.0%	98.4%	97.1%	96.0%	95.2%	99.6%	98.1%
短期 15床	定数	450	465	450	465	465	450	465	450	465	465	420	465	5,475
	実績数	470	519	482	516	549	506	507	524	541	503	495	512	6,124
	1日の平均	15.7	16.7	16.1	16.6	17.7	16.9	16.4	17.5	17.5	16.2	17.7	16.5	16.8
	占床率	104.4%	111.6%	107.1%	111.0%	118.1%	112.4%	109.0%	116.4%	116.3%	108.2%	117.9%	110.1%	111.9%
入院 3床	定数	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	84	93	1,095
	実績数	64	51	25	40	27	28	23	29	9	48	19	10	373
	1日の平均	2.1	1.6	0.8	1.3	0.9	0.9	0.7	1.0	0.3	1.5	0.7	0.3	1.0
	占床率	71.1%	54.8%	27.8%	43.0%	29.0%	31.1%	24.7%	32.2%	9.7%	51.6%	22.6%	10.8%	34.1%
合計	定数	3,150	3,255	3,150	3,255	3,255	3,150	3,255	3,150	3,255	3,255	2,940	3,255	38,325
	実績数	3,024	3,223	3,117	3,236	3,241	3,123	3,227	3,121	3,169	3,140	2,833	3,209	37,663
	1日の平均	100.8	104.0	103.9	104.4	104.5	104.1	104.1	104.0	102.2	101.3	101.2	103.5	103.2
	占床率	96.0%	99.0%	99.0%	99.4%	99.6%	99.1%	99.1%	99.1%	97.4%	96.5%	96.4%	98.6%	98.3%

2018年度の占床率は、利用者の長期入院のため、平均98.1%であったが、概ね100%近い占床率で推移した。昨年11月から1月の間に3名の長期入所者が逝去され、空き枠については短期入所枠として利用し、3月から長期入所者を受け入れ、満床となっている。

短期入所の占床率は111.9%で年間を通して100%を超える占床率で推移した。

入院ベッド3床を利用して緊急入所の受け入れを積極的に行った。棟スタッフの継続的な欠員状態により、重症患者の入院は体制上困難があるため他院へ搬送することが増加した。

(2) 外来診療

①外来診療実績（全体）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
診療日数	20	21	21	21	23	18	22	21	19	19	19	20	244
外来総数	1,526	1,609	1,534	1,621	1,686	1,392	1,737	1,638	1,583	1,551	1,557	1,624	19,058
1日平均	76.3	76.6	73.0	77.2	73.3	77.3	79.0	78.0	83.3	81.6	81.9	81.2	78.1

②診療科別実績

診療科	開設頻度	年間診療件数	一日平均件数
小児・内科	5回/週	4001	16.4
リハ科（訓練）※1	5回/週	8522	34.9
耳鼻科	2回/週	598	6.1
整形外科	2回/月	211	8.9
皮膚科	1回/週	126	2.6
精神科	0回/月	0	0
歯科	3.5回/週	1704	11.3
通所（生活介護）	5回/週	3896	16.0

※1. リハ科は、月1回土曜日診療を実施

通所は、外来受診日は「小児内科」を優先

③リハ単位数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
外来	2,502	2,706	2,475	2,715	2,818	2,345	2,764	2,708	2,652	2,422	2,427	2,682	31,216
入院	468	577	650	528	495	353	406	427	399	333	390	296	5,322
合計	2,970	3,283	3,125	3,243	3,313	2,698	3,170	3,135	3,051	2,755	2,817	2,978	36,538

外来診療は受診者が徐々に増加し、目標の85名/日には届かなかったが、12月以降は1日平均の外来数が80名を超えた。指導料の確実な取得や一般名処方の推進など、患者単価の増加に努めている。

リハ課は、月1回土曜日に訓練の実施を行い、利用者へのサービス提供を行った。また訪問看護ステーションえーると協働して訪問リハ、放課後等デイサービス「はみんぐ」「りずむ」への派遣を行っている。

(3) 検査課

検査件数実績

①院内検査

	外来	入院・入所	合計
CRP	522	1751	2273
血算	615	1756	2371
血液像鏡検	1	7	8
電解質	377	815	1192
迅速血糖(課内のみ)	23	44	67
血中濃度	405	297	702
血液ガス	110	388	498
血液型	0	1	1
交差適合試験	0	1	1
尿定性	188	218	406
尿沈渣	176	217	393
迅速検査	341	580	921
感染症	64	8	72
心電図	142	86	228
脳波	93	21	114

②外注検査

	外来	入所・入院	合計
生化学・特殊	783	697	1480
細菌培養	254	397	651
病理・細胞診	細 1	病 1/細 3	病 1/細 4

検体検査は、入所・入院の件数が前年度と比較し減少傾向だが、外来と同様に即時に結果を必要とする検査は増加している。また、血液像鏡検や交差適合試験を行うことにより、検査技師の専門性をより生かすことができた。

(4) 放射線課

	外来	入院	合計
C T	135	327	462
一般撮影	804	80	884
ポータブル撮影	65	1319	1384
透視検査	104	291	395
超音波検査	7	129	136
画像ファイル	87	43	130
歯科デンタル	58	4	62

上記の他に、毎月第2・4月曜の午後は、ファイバー使用のチューブ交換にも携わっている。毎月、医療機器の点検等も実施している。

(5) 栄養課

①入所食数実績 (件)

経口食	47,994
胃瘻食昼	7,589
胃瘻食夕	2,234
経管栄養食	121,324
日中一時支援	50
嚥下外来食	7
合 計	179,198

前年比では、経口食は変わらず、胃瘻食昼は3%、胃瘻食夕は30%、経管食は7%の増加。全体に昨年を上回った。

②通所食数の実績 (件)

経口食	1,112
胃瘻食	1,537
合 計	2,649

経口食と胃瘻食の割合は、前年は5:5、今年度は4:6で、胃瘻食が増加し、経口食を上回った。

在宅での「手作り注入食」が浸透してきている。

③放課後ディサービス食数の実績 (件)

経口食	44
胃瘻食	9
間食	172
合 計	225

今年新事業、7月より開始。支援学校終了後、週3回放課後利用時に間食、休校日は昼食と間食を提供した。次年度より、週5回利用となるため食数増は見込まれる。

④特別治療食数の実績

9,699食

前年比7%減少。長期利用の退所により減少（貧血食、低残渣食）。

⑤栄養指導件数の実績

外来	入院	訪問	合計
16	1	1	18

新たに訪問栄養指導を始める。今後も継続していく。

(6) 薬剤課

①調剤院内処方

診療科/病棟	処方箋枚数	件数	延調剤数
小児科	293	453	532
耳鼻咽喉科	65	91	123
内科	0	0	0
皮膚科	16	25	25
歯科	0	0	0
A棟	2,799	12,424	17,738
B棟	2,609	10,690	13,473
C棟	4,941	22,517	30,911
合計	10,723	46,200	62,802

②注射院内処方

病棟	処方箋枚数	件数	延調剤数
A棟	1,778	1,778	2,280
B棟	1,637	1,637	2,277
C棟	5,720	5,720	8,381
合計	9,135	9,135	12,938

(7) 医療福祉相談室

①受診申込受付

項目		合計
初診数		312 件
希望診療科別内訳	小児科・内科	75 件
	PT	71 件
	OT	65 件
	ST	81 件
	歯科	26 件
	耳鼻科	22 件
	他	88 件

横療移転後、初診受付を相談室で行なうようになり 2 年目となる。発達障害の初診、特に学齢期の児童が急増している（2017 年：267 件）。相談員が診察希望の内容等を聞き取り、必要に応じ診察場面への立合いやリハビリ課との連携に努めた。これに伴ない、発達障害の家族支援や関係機関との連携業務が増えた。

②短期入所

項目		計
新規申込み数		48 件
受診数	初診	43 件
	再診	35 件
	受診済合計	78 件
短期入所	申し込み件数	1,182 件
	利用件数(延べ)	845 件
	利用人数(実数)	268 件

新規申込み件数が昨年度より 30 件増。申し込みから事前外来までの期間を 3～4 ヶ月で留めるよう計画的に設定（月平均 4～6 件）してきたことで、事前外来の件数も増加した。30 年 2 月より短期入所は、横療・港南それぞれへの直接申し込みとなり、毎月調整作業を実施した。

③相談件数

項目	合計
計画相談総数	173 人（新規 25 人）
計画相談件数	1,528 件（新規 25/モニタリング [※] 222）
2 次相談件数	618 件
健康相談	5 件
巡回相談	0 件
出前講座	4 件

(8) 日中活動

参加数 (述べ)

	参加数	1 日平均
長期利用者	5,365 名	22.4 名
短期利用者	352 名	1.5 名
合計	5,717 名	23.9 名

2 部屋で活動し、長期利用者は月に 5～6 回参加。棟との擦り合わせを細やかに行ない、センターの生活の中において、日中活動が定着。また、短期利用者からも回数増の希望が多い。



INUCOLO を使って本格ボウリングに挑戦します！



本気の力を出して打ち込みます！

(9) 生活介護 (通所)

() 内は前年度との比較

開設日数	登録数	新規	通所者数	欠席数	1 日平均
244 (3)	40.3 (-2.9)	6 (1)	4214 (-38)	976 (106)	17.3 (-0.3)

4～7 月に新規利用者 6 名を受け入れた。4～6 月の間に長期入所への移行による退籍者が 8 名 (センター港南 7 名、横療 1 名)。9 月から回数増 (週 3→5) をした方が 1 名。3 月末で横療長期入所への生活移行による退籍が 1 名。昨年同様、長期入所への移行に伴い、出入りの激しい 1 年となった。

今年度、大幅に欠席者数が増加しているが、これは重症者の増加に伴い、入院による欠席が増えていることによるものである。一度入院すると数ヶ月単位と長期化するケースが増えており、今後も同様の状況が見込まれる。



毎年恒例のハロウィン



感動の成人式

(10) 訪問看護ステーションえーる

	合計
新規	11 名
終了	5 名（長期移行 3 人・委託終了 1 人・事業所変更 1 人）
契約総数	33 名
訪問数	1,294 件（1 日平均 5,3 人）
キャンセル数	289 件
訪問リハ	55 件

2018 年度は、看護師を 1 名増員して、新規の受入れを進め、契約数も前年度より 7 名増えて、33 名となった。また、体調不良時の臨時訪問等の要望にも対応可能となり、利用者や家族の安心に繋がり、好評価を得ている。

しかし、他の居宅事業同様に、朝夕に依頼が集中して日中の訪問が少ないことや、短期入所や入院等の理由で、20%程度のキャンセルが恒常化していることが課題である。日中の人員活用に関しては、外来・通所部門との支援体制を強化することで、かねてから利用者からの要望がある、医療度が高い方への、個人外出や、受診の付き添い等の保険外訪問(自費)事業の開始を予定している。

(11) 管理部

地域連携

ボランティア受け入れ

	合計	1 日平均
個人実数/延べ人数	28 名/456 名	1.9 名
団体実数/延べ人数	9 団体/356 名	1.5 名

今年度も多くのボランティアの方々にサポートを頂き、3 月 29 日に長年継続して来られている 3 名の方に表彰を行った。

(12) ヘルパーステーションまいはーと

() 内は前年度との比較

	合計	平均/月	1 日平均
訪問者数	1,015	85 (+9)	4.2
訪問件数	7,309	609 (+4)	30.5
訪問時間	8,581	715 (-29)	35.8

利用者の体調不良による訪問キャンセル・予定変更が発生したが、訪問者数、訪問件数共に昨年度の件数を上回った。訪問時間数の前年度対比は 96%となり 4%減となった。

(13) 病児保育室あさひ

開設日数 244 日

総登録者数 1428 人（うち新規登録者数 161 人）

	合計	1 日平均
申込者数（人）	1282	5.3
キャンセル数(人)	659	2.7
延利用者数	609	2.5
加算利用者数 （月利用者数－20 人×12 か月）	374	1.5

企業型の大規模病児保育室が開設に伴い、利用者の流出があったことや、感染症の流行期間が短かったことから、2018 年度に入り、新規登録者と利用者が少ない状況となっている。

サービス向上の一助として、保護者の昼食準備や利用前受診の負担軽減のため、レトルト食品の販売と、センターの外来受診体制を再整備し、スムーズに利用できるようになった。また、保護者の要望や感染予防面も考慮して、保育室ひかりの園児が発熱した時に、病児保育室で預かるサービスを開始した。今後も、保護者の意見や要望を聴きながら、安心して利用していただけるよう対応していきたい。

(14) 放課後等デイサービスはみんぐ（期間：7 月～3 月）

	月曜日	火曜日	水曜日
登録人数	2 名(11 月～3 名)	3 名	5 名(1 月～4 名)
開設日数	31	38	37
出席人数	66	59	139

7 月から週 3 日開所し、上菅田特別支援学校を対象として小学 1 年から高校 2 年の生徒 10 名が登録した。送迎は完全送迎にて対応を行い、職員は支援員、看護師、訓練士および運転手に対応した。3 月に家族懇談会を実施し、7 名が参加した。



お菓子をくれないといたずらするよ！



やっぱり水遊びは楽しいな～

Ⅳ 地域療育センターあおば

地域療育センターあおばは、青葉区在住の発達に遅れのある、または障害のある児童及びその家族を対象として、相談・診療・個別指導等によって、早期からの療育、地域への訪問支援とともに、児童発達支援事業や障害児相談支援事業等を実施している。

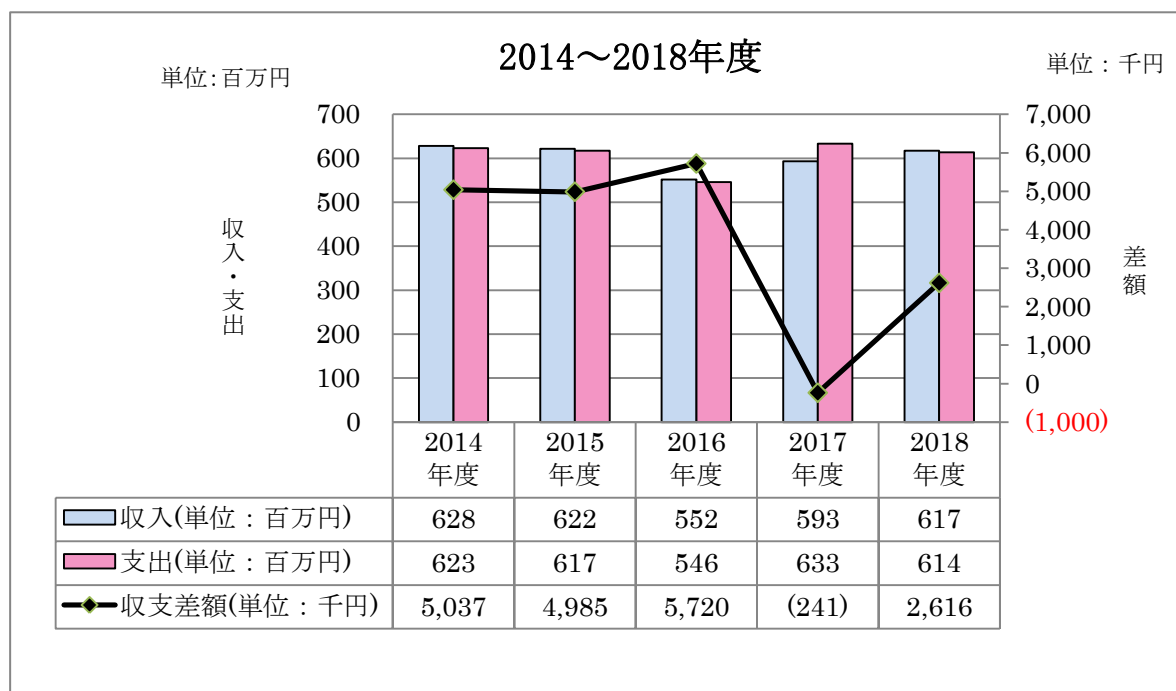
2018年度もまた、職員全員で今後のあおばのあり方について検討し、多様化する利用者のニーズに的確に対応できるよう、相談、訓練内容等の工夫に努めた。

外来診療及び保育所等訪問支援事業を除き、各事業の実績は目標値を上回っている。外来診療では、職員の産・育休等によって訓練件数が大幅に減少したため、前年度比でも件数減となった。また、保育所等訪問支援事業については、保育所等からの訪問ニーズが伸び悩んだため目標値を達成できなかった。

1 数値目標と結果

事業名	担当課	目標値（延べ人数）	実績	達成率
外来診療	診療課	17,000 人	16,347 人	96.2%
福祉型児童発達支援事業	通園課	9,260 人	9,750 人	105.3%
医療型児童発達支援事業	同	2,820 人	3,041 人	107.8%
児童発達支援事業	こども支援室	1,200 人	1,727 人	143.9%
障害児相談支援事業	相談課	500 人	685 人	137.0%
保育所等訪問支援事業	同	80 人	70 人	87.5%

2 資金収支差額の推移



あおばは、横浜市（こども青少年局）からの補助金収入、通園施設収入、診療報酬及び相談支援事業収入によって運営しており、2018年度は、診療課における診察件数、訓練件数を合わせた診療件数が前年度比で減少したため診療収入は減少したが、通園課、こども支援室の出席率が順調に推移したことにより、全体的には収入増となり、収支の改善を果たした。

過去5年間の収支状況を見ると、収支差額が縮小する傾向にあり、これは利用者ニーズに応えるために法人負担で人員配置したことによる人件費増が大きな要因となっている。今後、効率的なサービス提供を工夫しながら人員配置の見直しなど、経営改善に向けた取組みを徹底する。

3 各部門の実績報告

(1) 診療課

新患件数は、未就学児が293人、学齢児が91人の合計384人で、昨年度を6人下回った。再診件数は未就学児2,149人、学齢児1,782人で、新患・再診の総合計は4,315人となり、前年度を若干上回った。

なお、初診待機月数は2.2か月と、市からの通達である「3か月未満」を維持している。訓練等では、作業療法士1名の育休および言語聴覚士の産休、産休前や育児中のスタッフの時短勤務などにより、前年度の総計を下回った。

通園施設を利用する前の0歳から2歳程度の児童を対象として、理学療法士、作業療法士が中心となって集団療育活動を通年実施した。

	新患	再診	(小計)	PT	OT	ST	聴検	心理	総計
2018年度	384	3,931	(4,315)	2,545	2,637	2,174	379	4,297	16,347
2017年度	390	3,910	(4,300)	2,405	2,762	2,745	371	4,461	17,044
前年度比	+23	+100	(+123)	+140	-108	-571	+8	-164	-697

(2) 通園課

年間を通して、福祉型児童発達支援を利用した児童は107人、医療型児童発達支援を利用した児童は31人であった。年間療育日数は、212日である。

医療型児童発達支援は、親子通園の2歳児からの利用があった。3・4・5歳児は単独通園と親子通園を併用して運営した。

また、2018年度は、福祉型児童発達支援で午前だけの療育を行う週1回クラス1つと隔週クラス2つを設定して、待機を出さないように運営を行った。

(3) 相談課

初診相談件数は、前年度の390件を若干下回り384件であった。また、初診相談では低年齢児の申込みがインターネット等の情報ツールにより増えたこと、また、学校等教育機関からの紹介により学齢児の相談が増えていることなどから、今後、400件前後で推移するものと推察される。

その他、計画相談の充実を図り、個別支援会議の開催等により、地域の機関等との連携強化にも努めた。

初期療育を提供する外来グループでは、知的・発達群の児童を対象として各クール3グループ稼働し、年4クール、合計72名の児童を対象に実施した。

(4) こども支援室

1クラス7名定員で、8クラス、計56名の児童で療育を実施した。また、集団への不適応が著しい児童1名について、外来グループスタッフとの共同により個別療育サービスを実施した。

(5) 管理課

年2回の運営協議会において、センターの運営と青葉区内における障害児の療育の推進について協議を行った。

・運営協議会の開催

第1回 10月30日

協議事項①30年度前期事業（4月から9月まで）

第2回 2月26日

協議事項①30年度後期事業（10月から1月まで）

②31年度事業計画（案）

・通園バスの運行 中型バス3台により、区内3ルートで運行。

V たっちほどがや事業報告

たっちほどがやでは、2010年4月に開所して以来すでに9年が経過する中で、入所者の平均年齢は51歳7月まで上がってきており、通院や入院などの医療サービスが必要な利用者が徐々に増加している状況にある。また同時に、家族の方々も高齢化しており、通院の際の付き添いが困難になってきている家族の方々も見られる。

このような状況の中で、入所支援事業については、目標値の99%の実績となっているが、入院や逝去によって利用率は90%となっている。

また、短期入所事業については目標値の102%の実績となっているが、インフルエンザ感染の影響によって利用率は93%となっており、生活介護事業では、目標値の91%、利用率は約86%にとどまっている。

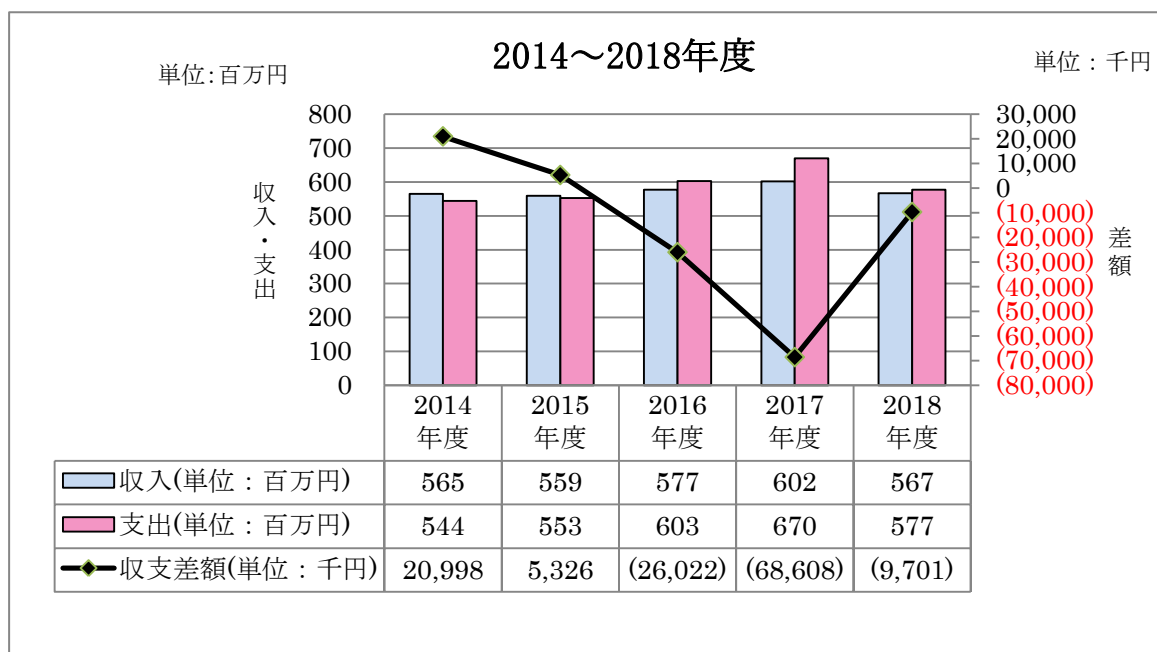
たっちいずみでは、生活介護事業、放課後デイサービス事業ともに目標値の90%程度となっているが、利用者は生活介護事業で512人の増、放課後デイサービス事業においても43人の増となっており、開所後5年以内の収支黒字化を目標に着実に実績を伸ばしている。

収支状況については、2017年度はたっちいずみの開所に伴い収支が悪化したが、2018年度は利用者数の増に加えて報酬単価の改定によって大幅に改善した。しかし、たっちほどがやでは施設設備の経年劣化や更新時期等を迎えており、今後、修理・修繕費用の財源確保が必要となることから、施設全体でこれまで以上の経営改善に取り組んでいきたい。

1 数値目標と結果

事業名	目標値	実 績	達成率
入所支援事業	15,600	15,466	99.1%
短期入所事業	2,300	2,345	102.0%
生活介護事業(通所)	5,600	5,087	90.8%
たっちいずみの生活介護	3,200	2,875	89.8%
たっちいずみの放課後等デイ	1,200	1,060	88.3%

2 資金収支差額の推移



3 各部門の実績報告

(1) 施設入所支援事業（定員暫定 43 人）

入所支援利用者数は、延 15,466 人で利用率は 90%となった。がん末期の利用者の逝去や、9 月から 11 月にかけて疾病による入院があったため、前年度より利用率は低下した。

単位：人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2018	1255	1279	1265	1332	1331	1279	1298	1254	1325	1325	1192	1331	15,466
2017	1251	1302	1237	1279	1303	1286	1317	1275	1327	1324	1200	1333	15,434
差異	4	-23	28	53	28	-7	-19	-21	-2	1	-8	-2	32

(2) 短期入所事業（定員暫定 7 人）

短期入所利用者数は、延 2,345 人で利用率は 93%となった。ユニット内でのインフルエンザの発症等もあり、9 月以降は 200 人を下回ったが、前年度比で 151 人の増となっている。

単位：人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2018	205	217	183	200	203	195	189	197	190	190	179	197	2,345
2017	190	198	192	168	193	184	193	185	201	168	170	152	2,194
差異	15	19	-9	32	10	11	-4	12	-11	22	9	45	151

(3) 生活介護事業（定員 20 名）

生活介護事業の利用者数は、延 5,087 人で利用率は 86%となった。厳寒期である 12 月から 2 月までは利用者数が減少しているが、前年度比で 380 人の増となっている。

事業実施にあたっては、ボランティアの協力が欠かせないものとなっており、散歩やレク

リエーション活動（ボーリング、ボッチャ、カラオケ等）、リトミック、音楽演奏、ヨガ、陶芸など、利用者一人ひとりに合わせた様々な活動が行われた。

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	440	465	444	444	470	408	440	427	369	369	395	416	5,087
2017	406	409	438	398	405	391	392	401	378	345	355	389	4,707
差異	34	56	6	46	65	17	48	26	-9	24	40	27	380

(4) たっちいずみの課

生活介護事業の利用者数は、延 2,875 人で前年度比 512 人増となった。今後、定員増を念頭に継続実施する。

また、放課後デイサービス事業の利用者数は、延 1,060 人で前年度比 43 人の増となっている。今後とも休校日や祝日等の受入れも充実していく。

和音

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	250	264	262	225	236	198	250	236	236	236	242	240	2,875
2017	207	207	229	200	217	189	202	192	196	172	167	185	2,363
差異	43	57	33	25	19	9	48	44	40	64	75	55	512

りずむ

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	89	89	88	103	95	87	86	83	83	83	85	89	1,060
2017	44	89	97	86	92	82	92	93	86	85	84	87	1,017
差異	45	0	-9	17	3	5	6	-10	-3	-2	1	2	43

(5) 入所者の外出支援（通院・外部通所は除く）

2015 年度から外出支援コーディネーターを配置しており、2018 年度の外出回数は前年度に比べ合計で 100 人以上の増加となった。

単位：人

	個 別	小集団	合 計
2018 年度	251	400	651
2017 年度	165	367	532
2016 年度	124	322	446
2015 年度	117	157	274

(6) 計画相談実施状況

2019 年 3 月末までのサービス等利用計画の完全実施に向け取り組んだ。計画相談員を配置して対応を行ってきており、次年度は事業所として更なる取り組みを行っていく予定である。

単位：人

	対象者数	計画案	評価
2018 年度	61	36	93
2017 年度	57	30	96
2016 年度	49	33	103
2015 年度	28	28	76

(7) 日中一時支援事業（定員 3 名）

2018 年度は、利用はなかった。

VI 保育室ひかり運営事業

1 全体目標に対する評価

2018年度より大幅改定となった国の「新保育所保育指針」に基づき、保育室ひかりとしての「2018年度保育の内容に関する全体的な計画」を作成した。これをもとに、乳児及び1歳～3歳未満児に新しく加えられた「視点や領域」について検討し、月ごとに指導計画を立案・実行・評価・改善を行った。

2 利用児童数の推移と保育給付費等収入について

2018年度の利用児童数は月平均17.8人、年間213人以上となり、目標とした月平均16人、年間190人以上を上回った。また、収入額は52,615,505円で目標額49,349,280円の106%を達成した。

利用児童数（定員19人）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (月平均)
0歳	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	32(2.6)
1歳	5	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	81(6.8)
2歳	8	8	8	8	8	9	9	9	9	8	8	8	100(8.3)
計	14	16	17	18	18	19	19	19	19	18	18	18	213(17.8)
一時保育	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	2	8(延人数)

注：一時保育は延べ人数を表記

（年間利用児童数推移）定員19人

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (月平均)
2018年度	14	16	17	18	18	19	19	19	19	18	18	18	213(17.8)
2017年度	13	13	13	13	13	17	17	17	17	18	18	18	187(15.5)
2016年度	13	15	15	15	17	19	19	16	16	16	16	16	193(16.1)

3 その他

(1) 連携施設との交流については、送迎バスを使用することによって、上の原幼稚園と8回の交流保育を行ったが、子供が歩いて往復するには距離が遠い園が多いため、多くの幼稚園との交流は困難な状況にある。今後、新桜ヶ丘保育園等の近距離の保育園に声をかけ、職員研修等を中心とした交流を図っていきたい。

(2) 職員研修については「保育エキスパート研修」に21日間、その他の研修は自主研修を含め5日間の参加をサポートし、処遇改善Ⅱに必要な研修受講ができた。